

博士學位論文審査要旨

氏 名	劉 燕 嵐			
学 位 の 種 類	博士（文学）			
学 位 記 番 号	博甲第 265 号			
学位授与の日付	2020 年 9 月 30 日			
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当			
学位論文の題目	限定語の意味と論理 ―現代中国語と日本語を中心に―			
論 文 審 査 委 員	主査	神奈川大学	准教授	加 藤 宏 紀
	副査	神奈川大学	教授	彭 国 躍
	副査	神奈川大学	准教授	松 浦 智 子
	副査	神奈川大学	准教授	夏 海 燕
	副査	神奈川大学	名誉教授	松 村 文 芳
	副査	神田外語大学	准教授	布 川 雅 英

【論文内容の要旨】

劉燕嵐氏から提出の博士學位論文『限定語の意味と論理 ―現代中国語と日本語を中心に―』について、まず「(1) 研究の目的」を述べ、次に「(2) 論文の全体の構成」を提示し、最後に「(3) 各章の内容」を説明する。

(1) 研究の目的

現代中国語の限定語（連体修飾語）に関する研究は、限定語の中心語（被修飾語）との意味関係に基づく分類、限定語を含む構造の多義性の問題および限定語の文中あるいは文外の各種成分との意味関係のあり方など多岐に及ぶ。また、他の言語における類似現象との比較など対照言語学的観点からの研究もなされている。しかし、限定語の意味をより深く理解するには、従来の形式上の分類や直観にもとづく意味記述といった表面上の説明では不十分であり、限定語がいかにして中心語と結びつくかという根源的な問いを、深い意味的な裏付けによって解明する必要がある。この論文ではこの点に注目し、主に現代中国語と日本語を対象として、限定語の意味を深く洞察し、その記述をより発展させることにより、限定語成分の意味を統一的かつ体系的に解明することを目的としている。

(2) 論文の全体の構成

まず第 1 章「現代中国語の限定語に関する先行研究」では、先行研究を「1.1 現代中国語の限定語に関する概観的な先行研究」、「1.2 現代中国語の限定語の分類に関する先行研究」、「1.3 現代中国語の限定語の多義構造に関する先行研究」、「1.4 現代中国語の限定語の意味指示に関する先行研究」に分けて紹介している。第 2 章「研究方法」はこの論文で採用する形式意味論の枠組みについて「2.1 命題論理と述語論理」、「2.2 モデルとモデル理論」、「2.3 内包と外延」で概要を説明している。第 3 章の「現代中国語の限定語の意味類型と論理分析」では「3.1 分析

の理論的根拠——「ものの結合の原理」について」，「3.2 一般性限定語の意味類型と論理分析」と「3.2 所属性限定語の意味と論理分析」，「3.3 同一性限定語の意味と論理分析」に分けてそれぞれ詳しく論じた。第4章「現代中国語の限定語による多義構造と論理分析」においては，「4.1 現代中国語の多義構造に関する考察」で4篇の先行研究に基づき現代中国語における多義の類型や多義表現を紹介し，「4.2 現代中国語の限定語による多義構造の論理分析」を行った。第5章「現代中国語の限定語の意味指示と論理分析」では，「5.1 意味指示とは何か」，「5.2 意味指示に関する先行研究」で意味指示という意味分析法についての概要をまとめ，「5.3 現代中国語の限定語の意味指示に関する先行研究」を紹介した上で，「5.4 現代中国語の限定語の意味指示の論理分析」を行った。第6章「現代日本語の限定語の論理構造の解明」では，「6.1 現代日本語の限定語に関する先行研究」を紹介し，「6.2 現代日本語における限定語の意味と論理構造」と「6.3 現代日本語の限定語による多義構造と論理構造」の2点を論じた。

(3) 各章の内容

第1章では「1.1 現代中国語の限定語に関する概観的な先行研究」として四つの先行研究（胡裕樹主編 1979，朱德熙 1982，刑福義 1996，馬真 2001）を紹介した後，ついで「1.2 現代中国語の限定語の分類に関する先行研究」，「1.3 現代中国語の限定語の多義構造に関する先行研究」，「1.4 現代中国語の限定語の意味指示に関する先行研究」の各節においては後の第3章，第4章，第5章の論点となる「限定語の意味類型」，「限定語の多義構造」，「限定語の意味指示」に関する先行研究の概要をまとめている。

第2章の「研究方法」では，この論文で分析理論として採用する形式意味論の基本的枠組みを説明している。まず2.1節ではこの論文における意味記述方式の中心的存在である「命題論理と述語論理」を「2.1.1 命題」，「2.1.2 命題論理」，「2.1.3 述語論理」，「2.1.4 命題と可能世界」の項に分けて導入し，さらに2.2節では論理表記に解釈を与える枠組みとしての「モデルとモデル理論」を「2.2.1 モデルと意味解釈」，「2.2.2 モデルと意味解釈の実例」によって説明している。そして，2.3節ではより強力に自然言語の論理的意味記述をするための装置である「内包と外延」の概念を提示している。

第3章の「現代中国語の限定語の意味類型と論理分析」においては，まず3.1節でこの論文における分析の理論的根拠となる「ものの結合の原理」を導入している。劉氏はL. ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』におけるものどものがどのように結合するかについての解釈を「ものの結合の原理」と命名し，これを現代中国語の限定語の意味類型に対する論理分析に適用した。「ものの結合の原理」とは，ごく簡潔に要約するならば「対象(もの)はそれだけで存在することはできず，かならず何らかの事態の中に現れなければならない，その事態の可能性は対象(もの)の中にあらかじめ先取りされている必要がある」という思考の枠組みである。たとえば，「青い花」というとき，「青い」は「何かが青い」という事態の可能性を集めた「論理空間」を構成する。この「論理空間」の中には「青い空」，「青い服」，「青い鉛筆」……など無限の可能性が存在するわけである。また「花」というものの中にはすでにこれらの「青い空」，「青い服」，「青い鉛筆」……など無限の可能性があらかじめ先取りされているということである。そして「花」をこの論理空間の中に入れる瞬間に，「青い」と「花」が結合し，ほかの可能性が排除され，「青い花」という事態が確定される。以下3.2節～3.4節に渡りこの「ものの結合の原理」に基づき論理分析を行っている。「3.2 一般性限定語の意味と論理分析」では刑福義 1996 の分類に基づき，合計8種類の限定語に対して論理分析を行っている。「3.3 所属性限定語の意味と論理分析」では，3.3.1項で“他的小猫”の

ような「典型的な所属性限定語」について論理分析を行ったほか、3.3.2 項では朱德熙 1982 をよりどころに，“张三的原告”，“他的篮球打得好”，“我来帮你的忙”など「特殊な所属性限定語」を論理分析している。また、「3.4 同一性限定語の意味と論理分析」では“两公婆吵架的小事”のような限定語を論理分析した。最終的に第3章で示したすべての限定語と中心語から構成される用例は「在' ($\vee^{\wedge} \phi, v$) & = ' (v, u_n) & 在' ($u_n, \vee^{\wedge} \phi$)」という論理式によって一般化することができる」と結論づけている。

第4章の「現代中国語の限定語による多義構造と論理分析」においては、限定語の多義構造の論理構造と意味関係を明らかにすることの意義として、自然言語の意味判別を機械で処理する困難を解決する有用な情報を提供することにあると指摘したうえで、「4.1 現代中国語の多義構造に関する考察」で4つの項に分け、朱德熙 1980、林祥楣主編 1991、邵敬敏 1999、朱華麗 2009 に基づき現代中国語における多義構造を紹介した後、それらを「文法関係による多義構造」と「意味関係による多義構造」に再分類しまとめた。「4.2 現代中国語の限定語による多義構造の論理分析」では第3章で導入した「ものの結合の原理」と形式意味論の手法による論理分析を現代中国語の限定語の多義構造に適用し、「4.2.1 文法関係の多義構造」の4種類の多義構造および「4.2.2 意味関係の多義構造」について論理分析を行った。

第5章の「現代中国語の限定語の意味指示と論理分析」はまず「5.1 意味指示とは何か」で、「5.1.1 意味指示の理論背景」と「5.1.2 意味指示の定義」に分け、意味指示の概念を提示し、続いて「5.2 意味指示に関する先行研究」では、4篇（文炼 1960、呂叔湘 1979、劉寧生 1984、陸儉明 2005）を取り上げ4つの項で紹介している。「5.3 現代中国語の限定語の意味指示に関する先行研究」では、5篇（峻峽 1990、丁凌雲 1999、王金鑫 2004、邵敬敏編 2007、蔣静忠 2008）を5つの項に分け紹介したうえで、この論文における捉え方を提示している。「5.4 現代中国語の限定語の意味指示の論理分析」では、「5.4.1 限定語の直接的な意味指示の論理分析」と「5.4.2 限定語の間接的な意味指示の論理分析」に分け、各用例に対して論理分析を行った。これまでの限定語の意味指示研究では個人の語感により意味指示の対象を判定するので、語感の個人差によって異なる結論をだすことがあり、また語感が不確定なものであるため、検証することが困難であったが、限定語の意味指示に対する論理分析を行った結果、意味指示対象を科学的かつ論理的に判定することができた。

第6章の「現代日本語の限定語の論理構造の解明」は「6.1 現代日本語の限定語に関する先行研究」で、5篇の先行研究を紹介した上で、第3章で導入した「ものの結合の原理」を適用し、6.2 節で「現代日本語における限定語の意味と論理構造」と6.3 節で「現代日本語の限定語による多義文と論理構造」を詳述した。その結果、この研究で採用した論理分析の方法論が日本語の限定語の意味研究に対する有効性とさらなる発展の可能性を提示することができた。

【論文審査の結果の要旨】

劉燕嵐氏が提出したこの論文に対して実施した博士論文口頭試問委員会における審査委員各位の見解、評価及び当日行われた議論を総合して次に論文審査の結果を述べる。

まず、劉氏の本研究の大きな功績は、それまで記述文法や対照言語学の枠組みで扱われることの多かった現代中国語の限定語－中心語（連体修飾語－被修飾語）構造の研究に劉氏が「ものの結合の原理」と命名した、言語哲学の概念を導入し、意味論の枠組みで分析を行ったことであり、劉氏

独自の観点で、従来にない新しいアイディアの提出である。

第二に、形式意味論の立場から命題論理と述語論理に基づく論理式表示法を採用し、現代中国語の限定語－中心語（連体修飾語－被修飾語）構造の意味上の成立過程を形式意味論の視点から深く考察し、統一的に解明することに成功した点である。これにより、これまでの研究で不明瞭なものでありながらも、分類や分析のよりどころであった母語話者の言語直観の一端を浮き彫りにすることができた。

第三に、現代中国語の限定語－中心語（連体修飾語－被修飾語）構造の意味の解明は、それが構成要素となる文さらには談話を対象とした意味および論理分析に不可欠であり、この分野のさらなる発展に対する貢献は大変大きい。

第四に、劉氏が採用した「ものの結合の原理」と論理式表示法は、現代中国語の限定語－中心語（連体修飾語－被修飾語）構造の分析だけでなく、日本語のそれにも適用でき、日本語との比較研究の進化への可能性を提示することができた。

第五に、広く先行研究にあたり、わかりやすくまとめられているだけでなく、着眼も鋭く、とりわけ限定語の意味指示を取り上げたことは劉氏が採用する意味・論理分析法の対象として適切な選択であった。

総じて言えば、劉氏の本研究は「なぜ二つの語が限定語と中心語という統語的關係によって結びつくか」という問題意識のもと、それまでの研究では暗黙の了解として光の当たらなかった意味の深い面に対して、新たな分析手段と深い洞察により明らかにしたもので、それまでには得られなかった知見を提供している。

今後、期待される研究課題として次の点が指摘された。

1. 文法論の枠に収まらない用例に対する深い分析
2. 文学的修辞用法に対する分析のあり方
3. 口頭言語と書面言語の違いを意識した用例収集と分析

以上、劉燕嵐氏の博士学位請求論文を詳細に審査し、博士学位論文口頭試問委員会における各審査委員の意見、評価を尊重し、また学位論文公聴会における劉燕嵐氏の明確な研究発表と率直、活発な議論を踏まえて本論文の内容を精査した結果、劉燕嵐氏のこの論文が博士（文学）の学位を受けるにふさわしいと認定した。